

# 建廃協NEWS 2026年新春号

## 令和8年を迎えて

組合員の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、振り返りますと昨年は、社会全体が「平時」と「非常時」の境界を改めて突きつけられた一年であったように感じます。全国各地で相次いだ熊被害は、自然と人間社会の距離感を問い直す出来事であり、私たちが関わる資源循環や環境管理のあり方にも、改めて責任の重さを認識させるものでした。

一方で、大阪・関西万博は盛会のうちにその幕を閉じ、未来社会の姿や新たな技術、持続可能性への取り組みを国内外に示しました。その舞台を支えた建設、運営、解体・処理を通じ、社会基盤を支える産業の重要性が改めて認識された一年でもありました。また、新たな内閣の発足により国の進む方向性が示される中、産業界には引き続き、確かな現場力と実行力が求められています。

こうした中、当組合にとりましても節目となる一年となりました。8月には、韓国建設資源共済組合および韓国建設資源協会と、建設廃棄物処理技術やリサイクル政策等の情報共有を目的とした「日韓業務協約」を締結しました。また10月には、設立50周年記念式典を無事に開催し、適正処理と相互扶助の精神のもと歩んできた当組合の歴史を振り返るとともに、「処理する」から「資源を創出する」への新たな飛躍を期す機会とすることができました。

私たち建設廃棄物業界に求められているのは、単なる処理の担い手ではなく、社会を下支えする「基盤産業」としての覚悟です。「働いて、働いて、働いて」現場を支え続けてきた組合員の皆さま一人ひとりの積み重ねこそが、業界の信頼であり、組合の力そのものだと、改めて感じております。

本年の干支は「午（うま）」です。馬は古来より、人と共に走り、運び、道を切り拓いてきた存在です。力強く前へ進むだけでなく、時には足並みを揃え、正しい方向へ導く——まさに今の私たちに重なる象徴ではないでしょうか。本年は、個々の力を結集し、組合として一体となって前進する一年にしたいと考えております。

結びに、本年が組合員の皆さまにとって、実り多く、そして安全で健やかな一年となりますことを心より祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

建設廃棄物協同組合

理事長 粕谷 毅